

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第238回定期演奏会

日本作曲家協議会(JFC)共催企画

作曲家との火花

Hibana

演出 福嶋頼秀
構成 久保田晶子
舞台監督 中島 隆

会場:台東区生涯学習センター ミレニアムホール

日時:2023年1月20日(金) 開演18時30分 開場18時00分

主催:特定非営利活動法人 日本音楽集団

共催:一般社団法人 日本作曲家協議会 JFC

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

後援:公益財団法人 日本伝統文化振興財団

JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION



文化庁

第238回定期演奏会

日本作曲家協議会(JFC)共催企画

作曲家との火花

Hibana

1, 『いざ出でむ雪見にころぶ所まで 邦楽七重奏のための』

山本準 作曲 公募選出 初演

[笛] 芝 有維 [尺八] 瀧上ラファエル広志 [三味線] 長井麻江
[琵琶] 藤高りえ子 [箏] 三宅礼子 [十七絃] 久東寿子
[打楽器] 富田慎平

松尾芭蕉の人口に膾炙した四句にちなむ4曲からなる組曲である。

第一曲(春) さまざまのこと思い出す桜かな

第二曲(夏) 夏草や兵どもが夢の跡

第三曲(秋) この道や行く人なしに秋の暮れ

第四曲(冬) いざ出でむ雪見にころぶ所まで

「いざ出でむ」の句は、決定稿は「いざさらば」の形であろうと思うが、ここでは別れの句となることを避けて、初案の「いざ出でむ」の形を題名にとった。

それぞれの句の趣を各曲に反映させるよう心がけた。曲はまず第四曲(冬)が最初に着想され、題名として芭蕉の句を添えることにより、自然に残る三つの季節の楽想が追隨した。邦楽器の合奏であるからということで日本的な題材・素材にこだわるのではなく、作曲者の内に在るすべての音楽的発想を自由に配することとした結果、この形をとって完成をみた。

(作曲者)

【山本準 プロフィール】

ピアノを飯田喬子、作曲を野田暉行に師事。テルミン奏者三毛子の伴奏者として活動中。

1982年から1987年まで、クロスオーバー・バンド、Landscape 主宰。2016年に「戦争が廊下の奥に立ってゐたー渡辺白泉の句による〜トランペット独奏のための」が曾我部清典氏により初演された。その後、新作の発表が断続的に続いており、2022年11月には「ディガンマ〜オーケストラのための」が初演された。



2, 『ランドスケープ 秋和 邦楽アンサンブルのために』

遠藤雅夫 作曲 公募選出 初演

詩：伊良子清白(詩集孔雀船“秋和の里”より)

[笛] 芝 有維 [尺八] 瀧上ラファエル広志 [三味線] 長井麻江
[琵琶] 久保田晶子 [箏] 喜羽美帆 [十七絃] 石井香奈
[打楽器] 多田恵子
[指揮] 稲田 康

この作品のテーマは「孤独」である。地震、コロナ、戦争と続くこの10数年は人々を孤独に追いやり、家族の死すら立ち会えないズタズタの、生の孤立が展開されて来た。そして私自身には老いの孤独が忍び寄る。

詩人伊良子清白を知る人は少ないだろう。1877年に鳥取市に生まれ医師となり、東京、浜田、大分、台湾、京都を経て鳥羽市で医院を開業し、その後疎開先の三重県度会(わたらい読む)郡大紀町で1946年に没し、唯一の詩集「孔雀船」が残された。

その中の詩「秋和の里」は若かりし詩人が、千曲川が流れる現上田市秋和の先輩を訪ね歓迎され、その返礼に贈った詩である。めでたい詩のはずなのに孤独に満ちている。

琵琶がこの詩を語り、世界を他の楽器が支える「宇宙」を夢見た。

4連の詩を切り離し4楽章構成とした。

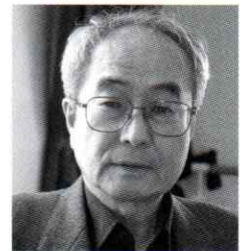
打楽器は巫女鈴のみを使用し、導入・全4楽章の繋ぎ・後奏に使われ宇宙を包み込む。

楽器解説から試演サービスまで行った日本音楽集団には感謝しかない。

(作曲者)

【遠藤雅夫 プロフィール】

東京生まれ。東京藝術大学大学院修了。日本音楽コンクール入選、音楽之友社作曲賞受賞、文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞。91年<国際現代音楽祭ISCM・チューリッヒ>、98年<クラコフ音楽週間>、99年ルーマニア<日本芸術週間>、06年ミュージックフロムジャパン公演に委嘱を受けて参加。国内外で作品が多数演奏されている。現在日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、日本・ロシア音楽家協会、北海道作曲家協会会員。越の風会友。



3、『沙庭の風』

菊池幸夫 作曲 委嘱初演

[笛・能管] 新保有生 [笙] 東田はる奈 [尺八] 大賀悠司
[三味線] 山崎千鶴子 [琵琶] 久保田晶子 [箏] 桜井智永
[十七絃] 久本桂子 [打楽器I] 富田慎平 [打楽器II] 多田恵子
[指揮] 稲田 康

清からで静かなる空間に様々な気が集い、うねりを帯び、やがて颯々たる風が吹き抜けるさまを、邦楽器ならではの趣ある響きによって描くことを意図した。邦楽器の奏でる音には、言霊ならぬ“音霊(おとだま)”が宿ると思えてならない。それを強く意識しつつ、曲中の音型や楽句は各楽器本来の語り口をなるべく損なわないよう努めた。それらが一つの空間で出会い呼応し合い絡み合うことで、何がしかの力を得て、新たな風を興すことができたとの思いで曲を書き進めた。

※この作品発表は、国立音楽大学個人研究費(特別支給)の助成を受けています。

(作曲者)

【菊池幸夫 プロフィール】

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院音楽研究科修了。第14回日本交響楽振興財団作曲賞入選、第3回芥川作曲賞受賞。委嘱作品を中心に管弦楽、吹奏楽、室内楽作品が国内外にて上演される。近年取り組み始めた邦楽作品には、『万籟蕭々 ～琵琶とアルト・サクソフォンのための～』『風吟抄 ～能管と篠笛のための～』などがある。現在、国立音楽大学教授、千葉大学講師。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、アプサラス各会員。



4、『天籟譜Ⅲ』

枇場富美子 作曲 委嘱初演

[尺八I] 田野村聡 [尺八II] 阪口夕山 [尺八III] 大賀悠司

40年ほど前に、幸運にも尺八三本会の演奏会で拙作「天籟譜～尺八三本と第二面のために」を取り上げていただきました。この曲名は、尺八の横山勝也先生が直々に付けて下さったものです。「天籟」とは、自然の中で発する響き、風の音、風が何かにあたった音を意味します。この曲名で邦楽曲のアンサンブルを書くのは三曲目になります。

曲は短い4つの楽章からできています。これまで書いてきた尺八の曲は、技巧を凝らしたものが多かったのですが、今回それぞれの楽章で尺八本来の響きを大切に、また三本で織りなす重なり合いの面白さ、掛け合いの面白さを表現しようと思いました。

2022年は横山先生の13回忌の年でした。尺八について多くのことを学ばせていただき、曲も書かせていただいた横山先生にこの曲を捧げます。

(作曲者)

【枇場富美子 プロフィール】

東京芸術大学作曲科卒業、同大学院修了。国内外の個人および団体から委嘱を受け、作品は国内だけでなくヨーロッパ、米国等で演奏されている。邦楽作品としては「佳運～尺八とオーケストラのために～」のほか、近作には「Fragments IV～第二面と尺八のために～」がある。芥川作曲賞、別宮賞、中国文化賞受賞。楽譜は全音楽譜出版等から出版されている。現在、東京音楽大学教授。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会理事、他。



5、『梓弓 2 ～悪霊退散～』

菅野由弘 作曲 委嘱初演

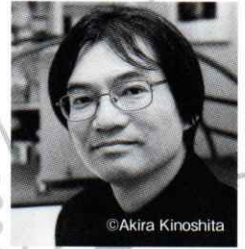
[笛・能管] 新保有生 [笙] 東田はる奈 [尺八] 田野村聡
[三味線] 山崎千鶴子 [琵琶] 藤高りえ子 [箏] 伊藤麻衣子
[十七絃] 久本桂子 [打楽器(梓弓・明珍火箸)] 富田慎平
[指揮] 稲田 康

梓弓(あずさゆみ)は、縄文時代の出土品にも弓とおぼしきものがあり、銅鐸に絵があり、埴輪にも弓を持つ武人像がある。弓の材料としては、当初、竹よりも梓が多かったため、弓と言えば梓弓となったようである。弓は狩猟の道具であるが、そこから音が出る、音を聴こうとしたことは、洋の東西を問わない。が、一方で狩猟の道具としての弓は、人も殺せる事に気づき、「血塗られた死」への恐れから「祈り」を發し、その發露として「交霊」を行ったのが、イタコの巫女ということになる。その巫女が使用している「梓弓」を、音楽学者の茂手木潔子さんが正確に復元製作した。「交霊」を行い「怨霊」を祓う「梓弓」で、日本音楽集団とともに「悪霊退散」を試みる。コロナ感染は依然として収まらず、プーチンのウクライナ侵略、ミャンマー、フィリピン、アフガニスタン、パレスチナ、北朝鮮、中国。これらの世界に巣くう悪霊を、退散させられる筈もないのだが。

(作曲者)

【菅野由弘 プロフィール】

東京藝術大学院修了。「弦楽四重奏曲」がモナコ・フランス・ピエール作曲賞(1979)。「アウラ」でイタリア放送協会賞(2002)、日本文化芸術財団「創造する伝統賞」(2012)。作品は、国立劇場委嘱の「西行一光の道」、NHK交響楽団委嘱の「崩壊の神話」、「ピアノの粒子3部作」(CD=BIS社)、古代祝祭劇「太陽の記憶—卑弥呼」。プリヘアード・ピアノとトイ・ピアノのための「猫はしばしば箱に潜る」、NHK大河ドラマ「炎立つ」。現在早稲田大学表現工学科教授、日本作曲家協議会会長。



©Akira Kinoshita

【日本音楽集団】

1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・笛、小鼓・太鼓などの打楽器、笙・箏などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。

現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇など様々な分野で演奏活動を行っています。

海外では、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア、南米等、32カ国152都市で公演を実施。アイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤ、ゲヴァントハウス・オーケストラ、ニューヨークフィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。

文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞、モービル音楽賞など、受賞履歴多数。



【賛助会員へのお誘い】

1999年10月、特定非営利活動法人として日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年会費 個人会員 10,000円 (一口以上)
法人会員 30,000円 (一口以上)

(年3回の定期演奏会への招待状を毎回ご送付)
詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせください。
またホームページにおいても、申し込み方法など詳しくご案内しております。



賛助会員 (口数・五十音順)

法人会員 日凸運送株式会社

個人会員 山本福八

天野真奈美 伊藤哲彌 伊藤美好 伊藤憲夫
池内伸子 柿崎やよい 佐藤玲子 友杉 毅 奈良英子
西川浩平 堀 保之 三宅一徳 元永明希
元永美代子 森 繁美 (他3名)

●日本音楽集団メンバー(楽器毎五十音順)

笛
あかる 潤
遠藤 悠紀 ※
芝 有維
新保 有生
孫 満夢 ※
竹井 誠

城ヶ崎美保
久本 桂子
丸岡 映美
三宅 礼子
森 真理子
山田 明美
喜羽 美帆
渡辺 正子

笙
三浦 はな
東田はる奈 ☆

打楽器
臼杵美智代
尾崎 太一
島村 聖香 ※
多田 恵子
冨田 慎平
山内 利一
盧 慶順

箏
西原 祐二
三浦 元則

尺八
響庭 凱山
大賀 悠司
川俣 夜山
阪口 夕山
田野村 聡
原郷 隆
藤崎 重康
洲上ラファエル広志
元永 拓
米澤 浩
渡辺 淳

指揮
福田 康
田中 元樹
田村 拓男
吉米地英一

三味線
村家 七三
長井 麻江
二代目 三山 稔積
大志 義田 弘大
義田 司郎
守 啓伊子
山崎千鶴子

作曲
相澤 洋正
秋岸 寛久
川崎絵都夫
篠田 大介 ※
高橋久美子
福崎 頼秀

眞正

アートマネジメント
大西 愛子 ※

楽器・舞台
中島 隆

代表
尾崎 太一

副代表
米澤 浩

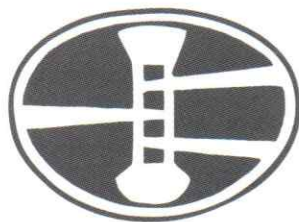
事務局
中山美穂子

永久名誉団員
長澤 勝俊

☆印は新入団員
※印は休団中
2022年12月現在

主催:特定非営利活動法人 日本音楽集団
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1F
電話03-3378-4741 FAX03-3376-2033 <http://www.promusica.or.jp>

TOKYO KINKODO



株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15

TEL (03) 3792-8481

URL: <http://kinko-do.com>

FAX (03) 3792-8437

E-mail: tokyo@kinko-do.com